

小田原

広報

まちづくり情報誌

2002

1月号
/1

平成14年1月1日発行
No.810



前原知子さん
花のように明るく
静かに、とい
うのが今年の
目標です。



中真梨子さん
4月には高校3年
生になります。来
年の今ごろは受験
を控えて大変かも
しれないけど、希
望がかなう年にな
るといいな。

高橋美貴さん
いよいよ高校生活
最後の年を迎えま
す。何事にも全力
でがんばります！

2002年

新しい年
ひとりひとりの
一年の計



佐宗雅幸さん
まず自分自身を磨き、
さらに人をも磨きた
いです。自分自身も
もっと向上したいし、
子どもたちに、やっ
ていいことと悪いこ
となどを教えたいと
いう気持ちです。

植松徳子さん
私たちは、わんぼくらん
どで動物の飼育をしています。
動物とのふれあいは、や
りがいのある大事な仕事。お
めでたい話にあやがるうと、
「愛」の字を使ってみました。
いいことがあるといいな。



今井清子さん
私たちの間にいる子
は、1歳の「ボクガキ」を
この夏に皆さんの前に出
られることを目標に、が
んばっているところ
です。目標せ初舞台！



廣井弘義さん
この言葉のとおり、毎
日にこやかに暮らして
いければ、いいことがあ
ると思うんです。私の
生活信条として、日々
心がけています。

21世紀にまた新たな1ページが刻まれようとしています。
皆さんはどのような新年をお迎えでしょうか。
小田原にとって、今年はどのような年になるのでしょうか。
小田原の鍵を握る二人の熱いメッセージをご紹介します。

展望を語る

前を向いて、夢を語ろう

市民の皆さん、新年明けましておめでとうございます。昨年の「厚情」に深く感謝し、新しい年もふさと小田原のために、全身全霊を傾けてまいります。

真の地方の時代

昨年は、地方分権の時代に、小田原市がその可能性をさまざまに模索した一年であったと思います。
地方分権一括法が施行された一昨年、本市は全国に先駆けて特別市の認定を受けました。
私は全国約30の特別市で構成する「全国特別市連絡協議会」の会長として、小田原はもとより日本の地方分権全体の将来を考えるべき立場にあります。そして、国や県からの権限委譲や財源面での相応の措置が伴わなければ、真の地方自治というべき施策を行うことは難しいと考えます。昨年11月には、さらなる権限委譲と財政措置などを求める要望書を総務大臣あてに提出いたしました。市民の皆さんに地方自治を本當

に実感したいただけるよう、これからも努力していかねばならないと考えています。

世界に誇れる 広域連携を

小田原市は箱根町・真鶴町・湯河原町とともに「西さがみ連邦共和国」を建国しました。歴史的にも生活的にも結びつきの深い1市3町は、連邦共和国の中で、21世紀の新たなまちづくりの可能性を研究していきまします。私は、この連邦共和国を通じて、それぞれのまちの住民の皆さんの一体感が強まることを期待しています。もちろん市町村合併のことも、その中で話題になるでしょう。このことについても、住民の皆さんのご意見をよく聞きながら、時間をかけて勉強していきたいと思っています。
広域連携をいいうことでは、3町に南足柄市と足柄上郡5町を含めた2市8町が、「東西地域広域都市町村圏協議会」として交流を積み重ねてきた歴史があります。また、酒匂川や

御殿場線沿線の市町による連携もありうるのではないのでしょうか。富士箱根伊豆国立公園を含むこの地域が力を合わせれば、世界に誇れる魅力を持つことができるでしょう。西さがみ連邦共和国は、そのような新しい都市圏を作り出すきっかけとなるのです。

未来への芽吹き

小田原は神奈川県西の玄関口にして、首都圏の玄関口であります。その意味では、広域交流拠点です。
小田原駅東西自由連絡通路の工事風景。平成15年度の完成を目指す。

にも位置づけられた、小田原駅東西自由連絡通路の意義はとて大きく、その完成が待たれます。中心市街地には、なりわい交流の拠点として小田原独自の交流拠点もできました。将来に向けた努力が、ようやく着実に形になりつつあります。

私は、市民の幸せを支える施策として、「健康」と「教育」に力を注いでいます。穀物を育て、収穫するには一年、木を育てるには十年かかります。そして人を育てるには百年かかるのです。次の世代をみんなと教育し、さらにそれを継承していく社会をつくるには、それだけ長い時間がかかります。そのため、未来を担う子どもたちを、地域社会が学校・家庭とともに育てるために、「静かなる教育論議」という取り組みを進めています。私は小田原の子どもたちにも、大いに期待をしています。世界的にも混とんとした時代だからこそ、夢を語り合い、前を向いていきたい。そして夢を必ず実現させるために、「一生懸命頑張っていきたい」と思います。



[小田原市長]

小澤 良明



新年を祝い、

新年明けましておめでと〜うございます。市民の皆さんにおかれましては、健康やかな希望にあふれた新春をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

人間万事塞翁が馬

今年(今年)は「平年」。年男である私は、今年一年に特別な意欲を感じていません。

「うま」と言えば、「人間万事塞翁が馬」という言葉があります。昨年は、世界的にもアメリカのテロ事件など悲しい出来事もありました。人間の「吉」と「凶」は全く予測できません。しかし悲しい出来事でも、受け止めることによって、良い方向性をアラスに考えられるよう、しっかりとした意識を持って、頑張りたいですね。

プラス思考で議論する



昨年11月に行われた、西さがみ連邦共和国建国フォーラムの様子。

住民の意思を反映した議論を

特別市となった小田原市は、地方分権に向けて走り出しました。昨年は西さがみ連邦共和国を建国し、ともに協力しながら地域の発展を目指すことを確認しました。地方分権の時代に「市3町がどのように連携できるか、これからの取り組みに注目が集まることでしょう。地方分権について言えば、全国特



【小田原市議会議長】

川口 真男

例市連精励会の会長市でもある本市の果たすべき役割は、非常に大きいと考えられます。小澤市長にはぜひ、新たな権限委譲や財源確保のために頑張りてもらいたいと思います。市町村合併については、時代の流れがそのような方向になっているのは事実です。ただしそこには住民の意思を反映することが大事です。明治時代や昭和の合併と一番違うのはその部分でしょう。ということは議会の役割が大きいということです。市議会では、「市町村合併問題調査特別委員会」を設置しました。今後はこの特別委員会の中で、住民の意向を十分に反映した議論を行ってきたいと思えます。市町村合併については、ぜひ住民の皆さんの中から、議論が高まってほしいですね。

教育について考えること

最近気になるのは、子どもの教育

について。特に家庭のしつけには、とても不安を感じています。今は核家族化がすすみ、三世家族も少なくなり、このことによつて世代間の交流がなくなつたことが大きな原因の一つではないでしょうか。おじいさん、おばあさんと孫とのやりとりを見ながら、親が子育てを学ぶということも大切だと思います。各地域で行っている健康祭を市全体で開いてみる面白いかもかもしれません。普段交流のない人との交流が生まれます。小田原市では、「静かなる教育議論」を始めています。これは大変素晴らしいことだと思えます。みんなが声を出して教育について意見を言い合えたら、きっと教育も変わってくるでしょう。今年一年、まっすぐにも教育にも、議会としてできる限り声を大きくし、真剣に議論をしたいと思えます。世の中も混んとしていますが、プラス思考で夢と希望を持って、皆さんとともに素晴らしい一年にしたいですね。



地域とともに生きる 子どもたち

教育連載
vol.1



平成14年度から完全学校週5日制が導入され、新学習指導要領に基づくカリキュラムがスタートします。学校・家庭・地域社会が一体となって子どもたちに『生きる力』を育むため、市内の小・中学校では来年度に先がけ、学校と地域と一緒にさまざまな取り組みを始めました。広報おたわらでは、地域とともに生きる子どもたちと学校の取り組みを、シリーズで紹介します。

☎学校教育課 ☎33-1684

短い時間ながらも楽しくひとときを過ごした子どもたち。パソコンという機械を通して、地域の方とのふれあいと世代間交流を同時に経験し、人とふれあう大切さを学びました。

11月14日・15日の2日間、矢作小学校でパソコン教室が開かれました。しかしこのパソコン教室、普通の教室とはちょっと変わっていました。何と子どもが先生で、大人が生徒だったのです。

今年で2回目となった、矢作小学校の子どもたちによるパソコン教室。この日は、地元・下府中地区自治会の自治会長さんや民生委員さんら22人の方を招いての「ふれあいパソコン教室」となりました。初めはやや戸惑い気味の子どもたちも、徐々に楽しい会話と生まれました。この教室では、インターネットを中心としたパソコン講座のあとに、子どもたちと地域の方とのメッセージカードづくりも行われました。

今年で2回目となった、矢作小学校の子どもたちによるパソコン教室。この日は、地元・下府中地区自治会の自治会長さんや民生委員さんら22人の方を招いての「ふれあいパソコン教室」となりました。初めはやや戸惑い気味の子どもたちも、徐々に楽しい会話と生まれました。この教室では、インターネットを中心としたパソコン講座のあとに、子どもたちと地域の方とのメッセージカードづくりも行われました。



小学生のちびっ子先生、
地域の方にパソコン教室
〜矢作小学校〜



今まで、自分の住んでいる地域について深く考えることの少なかった子どもたちが、メダカを育てる活動をおして、地域の方々とふれあい、地域や自然の大切さについて考えるようになりました。メダカの保護活動が、地域の人と自然を受する心を育てたのです。

報徳小学校には、井戸を掘って作った小川と池があり、小田原メダカが元気に泳いでいます。ある日のこと、子どもたちは毎日見ているメダカが絶滅危惧種であることを知りました。そして「メダカを多くの人に大切にしてもらいたい」と、メダカを増やすための活動を始めたのです。メダカのことを調べてホームページに公開したり、水質を改善するために炭や水草を入れ、池のメダカが住みやすい環境を整えたりしました。活動は広がりが、地域の小川を調べ、小川の様子を地域の方に聞きに行きました。そして、自分たちの育てているメダカを放流し、昔のようにメダカが泳いでいる小川にしたいと願うようになりました。

よみがえらせよう！
小田原メダカ
〜報徳小学校〜

教育、私はこう思う！

静かなる教育論議に
ぞくぞくご意見。



小田原市で取り組んでいる「静かなる教育論議」に多くのご意見が寄せられています。広報おだわらは、これらのご意見をどんどん紹介していきます。皆さんも、身近なところで教育について話し合ってみませんか。

◎教育総務課 ☎33-1671

「第1回小田原市子ども・未来市民会議」開催

◎企画政策課 ☎33-1304

「小田原市子ども・未来市民会議」が、11月20日(火)に中央公民館で開催されました。この会議は、「豊かな心」と「生きる力」を兼ね備えたたくましい子どもたちを育てるために、分野を超えて各界各層の関係団体の方が集まり、教育について自由に論議するのが目的です。

当日は、学校関係や青少年育成団体・社会教育団体などの既存の教育関係団体に加え、産業関係・芸術関係・国際関係の団体や市民活動団体など総勢46人の市民の方が出席しました。小澤市長を座長に、参加者からは、日ごろの活動や子どもたちとのふれあいの中で感じているさまざまな思いなど、教育に関する貴重な建設的な意見が出されました。

「最近の幼稚園児は、月や星を見たことがない子どもが多いと聞く。親と一緒に空を見上げる機会をつくっていない。こういうところからも、バーチャルと現実の区別がなくなっているのではないか」

「先日、しし座流星群を見て感動した。子どもたちにも、自然に触れて感動する体験が必要」

「家庭が教育の場としての機能を失ってきている。家庭での子どもの役割が昔はいろいろあったが、便利な生活の中で役割がなくなってきた」など、普段、子どもたちとかわっている方ならではの意見が大半でした。

子ども・未来市民会議は、「静かなる教育論議」の一つとして、今後も開いていきます。ご期待ください。



教育、私はこう思う！
vol.2

テーマ 「地域と教育」

いろいろな意見を聞いて皆さんが感じたり話したりすることも、教育論議です。

子育て支援について

若いお母さんやお父さんが、さまざまな人と、子育てのことなどを話し合える場があったらいいと思います。

感謝の心について

ピカピカの1年生がランドセルのふたを開けたまま走ってきたので閉めてあげた。そのまま駆け出したが、戻って来て「どうもありがとう」と言ってくれた。「ありがとう」という言葉の素晴らしいこと。

地域の協力について

二十数年前にPTAの役員をしたとき、当時は校内暴力が絶えなかつ

た。それに対処する際に感じたことは、地域の協力の大切さだった。

青少年犯罪について

犯罪のない社会を作るためには、学校教育だけでは間に合わず、社会全体が教育活動に協力し、一貫した教育方針を打ち出すことが大切だと思います。

地域との連携について

昔からそうであったと思いますが、今は学校と地域との相互理解が特に必要であると思います。いつも互いに手を差し伸べる関係を作っていきたいと考えています。

「教育」に関するご意見は、支所・連絡所などに置いてある「静かなる教育論議意見カード」(はがき・切手不要)や、小田原市ホームページにある「小田原市教育ネットワーク・静かなる教育論議投稿フォーム」などでお寄せいただけます。投稿フォームアドレス

<http://www.ed.city.odawara.kanagawa.jp/silent/index.html>

1月15日(火)～21日(月)は、「防災とボランティア週間」です。災害時のボランティア活動や自主的な防災活動についての認識を深め、災害への備えを充実・強化するために、平成7年度に設けられました。また、毎年1月17日は、「防災とボランティアの日」です。防災ボランティアにもいろいろある中から、今回は「応急危険度判定士」の活動を紹介します。

地震直後に建物診断 活躍する「応急危険度判定士」



「応急危険度判定士」は、建築物の専門家による防災ボランティア

大地震で一度傷ついた建物は、余震での倒壊や物の落下など、時間がたつてから人を死傷させるような「二次災害」をもたらす危険性があります。この二次災害を防止するため、大地震の被害を受けた地域の建築物を専門家が応急的に判定し、そこにお住まいの方に建物の危険の度合いをお知らせするのが、「被災建築物応急危険度判定制度」です。これは、被災した市などが、地震発生後の応急対策の一つとして行います。

応急危険度判定には建築物の専門知識が必要のため、民間の建築士などに「応急危険度判定士」としてご協力をいただいています。判定士は、建築物の専門家として公に認められた建築士(一級・二級・木造)のうち、指定講習を受けて登録申請をし、県知事から認定された方たちです。判定士として登録された方には、被災した場所の災害対策本部から要請があったとき、ご協力いただける範囲で、ボランティアとして判定作業を行っていただきます。

現在小田原市には、250人を超える判定士が登録されています。阪神・淡路大震災のときには、小田原市からも多くの判定士が現地へ派遣され、判定作業に活躍しました。



応急危険度判定根拠訓練の様子

危険度は判定ステッカーで判別

判定士は、判定活動をするとき、2人1組で行動し、身分を証明する登録証を常に携帯して、「応急危険度判定士」と明示した腕章とヘルメットを着用しています。そして、基本的に建築物の外側を調査して判定します。

応急危険度判定の結果は、判定ステッカーで出入口などに表示します。見やすい場所に貼ることで、その建物の利用者や住んでいる方だけでなく、建物の近くを通る方にも安全かどうかわかります。



判定ステッカーは「危険」(赤)・「要注意」(黄)・「調査済」(緑)の3種類で、それぞれA3判。判定結果に基づく対処方法の簡単な説明や、二次災害防止のための処置、判定結果についての問い合わせ先が書かれます。

応急危険度判定は、皆さんの家が、万が一被災した後、応急的に使っても安全かどうかを判定するものですので、建物の資産価値的な面を調査する被害調査とは異なります。



応急危険度判定までの流れ

災害が発生した場合、まず災害対策本部が設置されます。そこで判定実施が決定されたあと、実施本部を設置し、地元の判定士に協力要請をします。



地元判定士だけでは対応できない場合、県の災害対策本部に支援要請を行います。県は支援本部を設置し、県内の無被害市町村に応援を要請します。県内の判定士数が足りない場合は、さらにはほかの都道府県へ広域支援を要請することになります。

判定は、地震発生1日～2日後から10日、14日で行われます。

昭和56年6月以前の建物は耐震診断を

建築物の地震対策は、新築・既存・被災の建築物のそれぞれに対して行っています。



●新築建築物対策（建築基準法・耐震設計基準）

昭和56年6月の改正建築基準法で、新しく建てる建築物には、新耐震基準に適合するように定められています。

●既存建築物対策

（建築物の耐震改修の促進に関する法律）

昭和56年6月以前の建築物に対して、耐震改修を促進していくようとするものです。ご自宅が昭和56年6月以前の建物でしたら、安全確認のため耐震診断をおすすめします。木造住宅（在来工法）にお住まいの方は、ご自身で簡単に簡易診断ができるパンフレットを配布しています。建築指導課にお問



合ってください。被災建築物対策・震災建築物の復旧技術の開発し、応急危険度判定実施に地震が起きた後の対策です。震災直後に行うのが、応急危険度判定です。

あなたの力を必要とする人がいます せびボランティアの登録を

小田原市は、大規模地震対策特別措置法の地震防災対策強化地域に指定されています。東海地震・南関東地震・豊西部地震などの発生が危惧されています。これらの地震が発生した場合、近隣の市町村の被害も合わせて、数方から数十万という建物の判定を即座に実施のに行わなければならないと考えられています。これだけの被害棟数になると、他県からの応援が必要になります。

最小限にするための工夫や、何かあったときにお互いに助け合うことはできるはずですし。知識や技術をお持ちの方、そして自分も何か手伝えるかもという気持ちのある方は、ぜひご協力ください。

●「応急危険度判定士」募集

●建築指導課 ☎33-1433
毎年、神奈川県内で、7月から12月の間に10回程度、応急危険度判定士として登録するための「応急危険度判定講習会」を無料で開催しています。講習会の案内を希望される方はご連絡ください。

●「災害救援ボランティア」募集

●防災対策課 ☎33-1855

地震や台風などの災害が発生したときに適切な災害応急対策が行えるようにするため、随時募集・登録しています。登録された皆さんは、災害発生時に物資の配分・配送・給食・給水や、広域避難所の運営の補助、安否情報の収集・整理・伝達、医療や看護、介護や手話などの福祉活動、ボランティアのコーディネートなどに協力いただく予定です。

今後も、災害救援活動などの知識と技術の向上を図るために、登録者を対象に研修会や訓練を行い、必要な防災情報も提供していきます。

●専門の知識を持つ方だけでなく、何でもやるぞという意欲のある方はご連絡ください。

住まいの防災フェア

～地震・あなたの家は大丈夫？

身近な住まいの防災（地震・火災時の安全性）について紹介します。もう一度家のまわりを点検してみましょう。耐震セミナーや応急危険度判定士についての展示も行います。



建築指導課 ☎33-1433

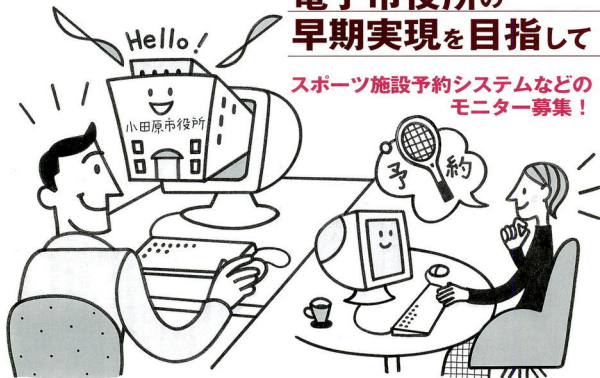
日時 1月17日(木) 9:00～17:00
18日(金) 9:00～15:00
場所 市役所 2階市民ホール

○耐震セミナー
日時 1月18日(金) 11:00～、12:30～、14:00～

※木造住宅（特に昭和56年以前の建物）にお住まいの方へ、自分でできる簡単な耐震診断の方法をわかりやすく紹介します。

電子市役所の 早期実現を目指して

スポーツ施設予約システムなどの モニター募集！



施設予約システム・車検用納税証明申請 実証実験モニター募集

IT推進課 ☎33-1100

小田原市は、今年度から3年間、総務省が行う「電子自治体推進パイロット事業」の協力団体として指定を受けました。そこで、市民ニーズの高い公共施設予約システムなどについて、全国で共通して使用できる標準的なシステムを作るため、実証実験を行います。

「施設の予約状況はインターネットで確認できるけれど、予約できないのがちょっと…」と感じていた市民の皆さんに、ぜひモニターになっていただき、このシステムを実際に利用して、感想や意見をいただきたいと考えています。

期間 2月1日(金)～2月28日(木)

対象 市内在住で、期間中に下記施設などを利用でき、インターネットによ

る手続きを行える方。多数抽選。

※操作説明を行うので、インターネット初心者でも大丈夫です。

内容 インターネットによる施設予約と予約状況の確認、申請手続き

申込方法 1月18日(金)までに(消印有効)、希望するモニター名・氏名(代表者名)・団体名・住所・電話番号を記入し、はがき・ファックス・Eメールで、〒250-8555 小田原市役所 IT推進課 庶33-1101

E-mail it@city.odawara.kanagawa.jp

※中央公民館・小田原アリーナに設置する予約用パソコンなどが利用できます。(自宅パソコンなどを利用する場合、インターネット接続経費は個人持ちとなります。)

※決定の可否は郵送します。

現在小田原市では、インターネットを利用して、市民の皆さんが24時間どこからでも行政サービスを受けられるような「電子市役所」の実現を目指しています。市では今年度、先進的な電子市役所を実現するために、「IT戦略推進会議」を立ち上げました。IT(情報通信技術)を積極的に活用することで、市民の皆さんの生活が便利になり、まちの運営も効率良く効果的に行えるようにするために、調査・研究を進めています。

また国も、行政運営の簡素化・効率化、透明性の向上や国民の利便性の向上を目的として、電子政府・電子自治体の推進に積極的に取り組んでいます。2001年3月には、重点的に実施すべき施策として「eJapan重点計画」を決定し、2003年度目標として、情報の電子化の提供、申請・届出などの手続きの電子化、歳入・歳出の電子化、調達手続きの電子化、ペーパーレス化(電子化)を掲げています。

モニター名	対象	定員
スポーツ施設予約システムモニター	市内スポーツ施設利用者または団体	30
中央公民館予約システムモニター	中央公民館施設利用団体	20
軽自動車車検用納税証明申請モニター	軽自動車取扱ディーラー	30

まちづくりには、本気です！

政策総合研究所だより

政策総合研究所とは

この研究所は、自治体版シシタックです。シシタックとは一般的に、企業が直面している経営課題などについて、依頼を受けて調査や研究などを行う研究機関の

ことを指します。より住みよく、魅力あるまちをつくるためには、今何が必要で、何をすべきなのかを自らが必要・研究する必要があります。そこで小田原市は、自治体版シシタックを立ち上げることにしたのです。平成12年4月の

設立当時、この画期的な取り組みは地方分権に積極的に対応するものとして大変評判になり、市内外から注目を集めました。スタッフは、公募による市民研究員のほか、学識経験者や市職員による研究員などで構成されています。

これまでの経過と現在の取り組み

平成12年度は、半年をかけてまち歩き調査などを行い、歴史・文化・生活・産業の資産を生かすまちづくりについての政策提言を「小田原スタディ」という冊子にまとめました。



長野県小布施町の酒造会社で、日本酒づくりに励むセラ・マリ・カミングスさんをお招きの公開研究会の様子。

ヨーロッパで市民の権利と義務がはつきりしているんですよ。その点、日本は主張ばかりですが、ちなごころがあります。なぜ自分がか小田原に住んでいいのか、その理由を一人一人によく考えていただけだいたいと思います。そうすると小田原の良さがかわがれを守ります。良さがあれば、それを誇りたいと思うようになります。そうすれば人はまちのために努力し、議論し、交流が生まれるのです。

政策総合研究所がやるべきことは、そのお手伝いをするのだと思います。私たちがまちの資産を掘り起こしているのは、小田原に埋もれたすばらしいものを皆さんに知っていただき、一人でも多くの人にまちづくりに参加していただくためのことです。

美しいまちときれいなまちは違います。街並みの壁をきれいに塗り直させるだけでは、きれいなまちなっても美しくなつたとは言えません。美しさとは、たとえば皆さんが自分の庭に花を植えたり、わがりの調和を考えて家を建てたりする心にあるのです。住んでいる人にまちを愛する心があれば、訪れる人を魅了する美しいまちは訪れます。ヨーロッパのまちは美しいのは、古い建築物をそれぞれが活用しながら残しているからです。たとえば、1階部分の店はカラフルで個性的でも、2階より上の壁の色は質感がほぼ同じです。屋根

の高さも隣の家とそろえています。そのうち街並みは調和がとれます。一人一人がまちづくりを考えながら生活しているからこそできることです。

研究所がか小田原で発掘しようとしているのは、北条早雲や二宮尊徳といった有名な人の遺産ではありません。小田原の皆さんが過去に持っていた身近な資産、つまりお父さんやおじいちゃんなどが残したまちの遺産です。今の人に、お父さんやおじいちゃんがかしてきたことを目直してほしいんです。昔の小田原のまちは、共に創る仕組みがありました。

政策総合研究所という取り組みを始めた小田原市は、本当にすばらしいと思います。小田原はまち全体が魅力であふれています。美しいまちなることが人を集め、活気を取り戻すことができるというところに、市民の皆さんに早く気づいてほしい、そう願っています。



美しいまちときれいなまち

政策総合研究所 所長 杉本洋文さん
市民ラボ研究グループリーダー

Interview

政策総合研究所がやるべきことは、そのお手伝いをするのだと思います。私たちがまちの資産を掘り起こしているのは、小田原に埋もれたすばらしいものを皆さんに知っていただき、一人でも多くの人にまちづくりに参加していただくためのことです。

美しいまちときれいなまちは違います。街並みの壁をきれいに塗り直させるだけでは、きれいなまちなっても美しくなつたとは言えません。美しさとは、たとえば皆さんが自分の庭に花を植えたり、わがりの調和を考えて家を建てたりする心にあるのです。住んでいる人にまちを愛する心があれば、訪れる人を魅了する美しいまちは訪れます。ヨーロッパのまちは美しいのは、古い建築物をそれぞれが活用しながら残しているからです。たとえば、1階部分の店はカラフルで個性的でも、2階より上の壁の色は質感がほぼ同じです。屋根

平成13年度は、①まちの資産をのちの政策に役立てるためにさらに深く調査し、マップを作る。小田原産産調査、②研究成果を市民の皆さんに広くお知らせし、一緒に新たな発見をしていただくための公開研究会などを開く。市民ラボ、③市民の皆さんと研究所の情報交換の場を作っていく。まちづくり情報交流、④の三つの事業に取り組みしています。

小田原産産調査では、地元住民の皆さんにインタビューを行いながら、東海道に沿る歴史の建造物などのカタチ作りを進めています。市民ラボでは、昨年度にまちづくりの重要なキーワードとして位置づけた「なりわい」をテーマに、

公開研究会を開いています。市民や事業者の皆さんにカメラとメモを持って各地区を歩いてもらい、歴史に育まれた遺産やそこに暮らす人々の話などを集めて、大きななりわい散歩地図をつくり、これからまちづくりを考えよう。また、ゲストについて議論をぶつけ合う、小田原評定スタジアムも開いています。研究所では、こうした取り組みを通じて、市民の皆さんの手で新たなまちづくりが始まることを期待しています。今後開かれる公開研究会にぜひ参加してみてください。

公開研究会を開いています。市民や事業者の皆さんにカメラとメモを持って各地区を歩いてもらい、歴史に育まれた遺産やそこに暮らす人々の話などを集めて、大きななりわい散歩地図をつくり、これからまちづくりを考えよう。また、ゲストについて議論をぶつけ合う、小田原評定スタジアムも開いています。研究所では、こうした取り組みを通じて、市民の皆さんの手で新たなまちづくりが始まることを期待しています。今後開かれる公開研究会にぜひ参加してみてください。

平成13年度小田原市民功労賞はこの方たちに！

市民功労賞は、学術・文化・福祉・産業など、市民生活のさまざまな分野において功績のあった方々に贈られます。今年度の受賞は次の方に決まりました。贈呈式は、1月14日祝日に市民会館で行われます。

市民交流課 ☎331703

いしい かん
石井 歓さん(板橋)

作曲家として、広く市民に音楽を愛する心を伝えてこられました。特に平成12年の市制60周年記念事業「全国童謡フェスティバル〜白秋 IN 小田原〜」では実行委員長を務められ、創作童謡詩コンクールの最優秀詩「ねずみががじる」に曲をつけていただきました。

すずき かんすけ
故 鈴木 貫介さん(早川)

歌人として、生涯にわたり高雅な作品を残され、市民文化の向上に尽くされました。特に第3歌集「南畝集」は第43回読売文学賞候補となりました。平成7年4月からは小田原文学館顧問を務められました。

たけだ かねたろう
田代 兼太郎さん(浜町)

民生委員児童委員、万年地区民生委員児童委員協議会総務を経て、小田原市民生委員児童委員協議会会長に就任。地域福祉の増進に努められ、やさしさとうるおいのある地域社会の実現に貢献されました。

ほまの たかし
濱野 高四さん(南町)

桐細工の指物技能者として七十余年にわたりこの道一筋に精励されています。茶道具・軸箱・和室の装飾家具などを手がけ、その卓越した技能をもって本市の文化の振興に尽くされました。

ふじもと みとし
藤本 美俊さん(南町)

小田原の水産市場の活性化に尽力されるとともに、「小田原みなとまつり」「小田原さかなまつり」を隆盛に導き、本市漁業の発展に貢献されました。

※なお、この賞は市民の方々からの寄付金をもとに設置した小田原市ほう賞基金により運営しています。

よみきかせグループ「すずの会」

幼児から小学生までを対象とした図書館でのよみきかせを長年にわたり開催し、本市の児童の情操教育に貢献してこられました。



今年も盛況

ツデーマーチ!

ツデーマーチ実行委員会 電話 381198



今年で3回目を迎える「城下町おだわらツデーマーチ」が11月17日(土)・18日(日)に開かれ、全国から参加者が集まりました。

今回の大会は、厚生労働省の「健康日本21キャンペーン」に呼応して行われている「寅さんウォーク」の神奈川県認定大会ともあったため、寅さんのそっくりさんも応援に駆けつけてきました。

また、前日(土)イベントとして「ぽっかくコース」を初めて実施。ぽっかく小田原に来たんだからもっと歩きたい、正規コースとは別の歴史や自然にも触れたいとお考えの皆さんに喜ばれました。この「ぽっかくコース」の参加者も含めてのべ8,000人を超える方が、さわやかな秋晴れの中、ウォークを楽しみました。

「恋するトップレディ」

1月8日(火)22:00～(全11回) フジテレビ

中谷美紀さん扮する主人公は、25歳のフリーター。ところが、鏡浜市長だった父親が急死したため、周囲に担がれるまま市長選に立候補することに…。

鏡浜市長の市民葬のシーンは、300人のエキストラを動員し、中央公民館でロケを行いました。小田原市役所も、「館浜市役所」という看板や垂れ幕をつけて、聖堂の「館浜市役所」に早変わり。外観が撮影され、ドラマに登場します。

市長の警護を担当するSPに柳家敏郎さん、地元ケーブルテレビのキャスターに廣瀬恵さん、老かいな助役に小野武彦さんほか、松崎しげるさん、蟹尾真知子さんなど、豪華キャストが出演します。

「プリティガール」

1月9日(水)22:00～(全9回) TBS

森脇いづみさん扮する主人公は、ある日突然、職業も住居も恋人も失ってしまいますが、銀座4丁目の高級デザート「アンドリュース」に勤めることになって…。

この「アンドリュース」としてロケが行われているのが、ダイナシティ・ウエスト、ロビンソン百貨店です。先日、正面玄関前にリンゴの木を仮設し、実をもらいお客さんにサービスするシーンが収録されました。

アンドリュースに勤務するOLに米倉涼子さん、片瀬那奈さん、経営者に田辺誠一さん、社長に宇津井健さん、社員に片平なぎささん、渡辺いっけいさんと、こちらも豪華キャストが勢揃いです。



撮影快調! 小田原がドラマの舞台に?

自然が豊かで交通の便がよいことなどから、映画やテレビドラマの撮影が行われることがある小田原市。なんと今回、1月から始まる二つのテレビドラマの撮影が市内で行われています。どちらも、物語の舞台が小田原市というわけではないのですが、場所や建物が制作側のイメージに合ったとのこと。

家の近所が映ったので、知っている人がエキストラで出演したりしているかも? ブラウジングやスクリーンに登場して、日本人の々に届けられる小田原の映像、これからももっと見たいですね。

「我ら小田原応援団！」 小田原評定衆からのメッセージ

各地で小田原の情報や魅力を発信してくださっている「小田原評定衆」の皆さん。
新春の今回は、作家の童門冬二さんが、小田原の皆さんへのメッセージを寄せてくださいました。

市民交流課 ☎33-1706

●荒地の徳を掘り起そう

童門冬二さん 作家



1927年東京生まれ。かつて東京都庁に勤め、都立大学事務局長、都知事秘書、広報室長、企画調整局長、政策室長などを歴任して退職。作家活動に入る。歴史の中から現代に通じるものを選んで書き、執筆活動のかたわら講演活動も積極的にやっている。第43回芥川賞候補。日本文芸家協会会員、日本推理作家協会会員。平成11年、勲三等宝冠章受章。著書に、『小説上杉藤山』『小説二宮玄次郎』ほか多数。

二宮玄次郎がいった「土と徳」ということばをいつも思い浮かべている。二宮玄次郎は「土の中に徳がひそんでいる。農民が土を耕すのは、鋤を通じて自分の徳を土に伝えるためだ。それを受けた土のほうも、農民の徳に報いるべく自己努力をする。それが農産物に結実する」というような意味のことをいった。味わい深い。

わたしはこれをさらに「荒地の徳」におき替えている。つまり荒地といえは、人間はすぐ「何も育たない」とみかぎってしまう。が、荒地にも徳があると思えば、それが発見できるのは耕す側の根気と努力が不足しているということだ。荒地だから、ふつうの土とは違った場所や、もっと奥深いところに徳がひそんでいる。それを発見せずに「いくら耕してもむだだ」といいきるの、やはり速断だ。

この考え方は、家庭・職場・学校・地域社会のどこにでも当てはまる。つまり、子ども

や生徒や部下や後輩などに対し、「この人間はだめだ」ときめつける前に、「相手は荒地だ。それに対する自分の耕す努力が足りないのではないか。あるいは、自分の荒地に対する愛情がきちんと伝わっていないのではないか」と考えることのほうが、人間の世の中はもっとゆたかに明るくなる。

しかしだからといって、無制限無量に、努力をつづけなければならないというものでもない。やはりけじめが必要だ。それには荒地側にも自分を耕してくれる相手の徳を感じさせるような薄き方も大切だ。このへんの兼ね合いがむずかしい。とくにITがすすんで、生活革命がいきなり、個人の自己完結性が狭まっている現在、この「荒地と徳」を、しみじみと感ずる。そして「オレも結構いろいろな人間を、この人物は荒地なので努力のしがいがない」と、きめつけているのではないかと反省している。

最終回 現地通信 帰国報告会 オーストラリア・リフレッシュステイ

オーストラリアに1か月から3か月の間滞在して、農場体験や日常生活をおして、心と体をリフレッシュする「オーストラリア・リフレッシュステイ事業」。その参加者による帰国報告会が行われました。

市民交流課 ☎33-1707

12月2日(日)、国際交流ラウンジで開かれる恒例のティーサロンに、オーストラリア・リフレッシュステイ事業に参加し、帰国された5人の方が集まりました。リフレッシュステイ事業は、今年初めて行われた取り組みで、オーストラリア・マンリー市との青少年交流事業「ときめき国際学校」の10年間にわたる成果として実現しました。公費による5人の参加者は、現地での生活や農場体験で、大いに心身のリフレッシュをされたようです。この事業を通じて、小田原市とマンリー市との交流もさらに深まったこととしてよう。



「実際に行ってみると、オーストラリアはとてつもなく大きい国だった。一服の水泳を大いに試してみたかった」など、最高だった「など、楽しかった体験の数々を披露すると、会場からはさまざまな質問が飛び交いました。ティーサロンは終始和やかなムード。オーストラリアのチョコレートクッキーも紅茶とともに振る舞われ、大好評でした。」



左から、石崎眞知子さん、大竹恭次さん、小川敏雄さん、榎井練子さん、篠原正美さん。

現地での生活や体験は、「広報おたわら」9月1日号から12月1日号の毎月1日号のお中で連載しました。参加者からのお便りをお読みいただくと、楽しい様子が伝わります。ぜひご覧ください。

ティーサロンとは

市民団体の方がホストになり、お茶やお菓子をいただいたながら、「海外生活体験」「在任外国籍の方の故郷紹介」「日本文化紹介」NGO活動紹介などをとおして、楽しいひとときを過ごしていただくイベントです。催しの内容などは、広報おたわら11月(15日号)で毎回お知らせします。



酒白川

mother the Sakawa

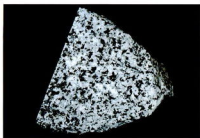
母なる

生命の星・地球博物館の学芸員が、さまざまな視点から酒白川の魅力をリレー方式で紹介します。

酒白川の河原の石

（石の宝庫、酒白川）

山下 浩之（神奈川県立生命の星・地球博物館 学芸員）



丹沢山の中心部に露出する石英閃緑岩。トーナラル岩とも呼ばれる。



黒い玄武岩の河原（奥）と石英閃緑岩の白い河原（右）が合流する音織の河原。



神奈川県天然記念物に指定されている。ノウサンゴの仲間化石を含む石灰岩。門田真人氏提供。



黒い玄武岩の河原（奥）と石英閃緑岩の白い河原（右）が合流する音織の河原。

私

たちが住む足柄平野は、何からできているのでしょうか。その答えは、酒白川の河原に行けばわかります。足柄平野は、酒白川が大量の土砂を上流から運びこむことよってつくられました。では、酒白川の河原には、どんな石があるのでしょうか。酒白川の上流に広がる地質が、河原の石の源となるはず。川をさかのぼって、上流に広がる地質を見てみましょう。

酒

酒白川の上流の源の一つは、御殿場から流れる鮎沢川です。御殿場は富士山の麓にあります。富士山は、およそ8万年前から最近まで活動していた火山で、マグマが冷えて固まってきた。玄武岩という岩石からできています。玄武岩は、表面にたくさんのがさが抜けた穴が見られる黒い石です。穴はマグマが冷えて固まる際にできたものです。鮎沢川は、富士山から流れてきた玄武岩が多く見られるため、河原が黒く見えます。

酒白川のもう一つの源は、丹沢層群という地層が広がっています。丹沢山地です。丹沢山地には、

ます。丹沢層群の大部分は、およそ1700万〜1300万年前に、火山噴火によってもたらされた火山灰や溶岩の破片などが、海の底に積もっています。凝灰岩や溶岩からできています。凝灰岩は、緑色のものがほとんどです。しかし、粒の大きさや化学組成の違いなどから、白、紫、赤、灰、黒など、さまざまな色のものもあります。丹沢層群には、凝灰岩や溶岩のほか

にサンゴ化石を含む石灰岩も見られます。これらことから、当時の丹沢は、今よりはるかに南の温暖な海の下海であったと考えられています。

丹

丹沢山の中心部には、マグマが地下でゆっくりと冷えて固まってきた石灰閃緑岩という、花崗岩の一種の岩石が露出しています。石灰閃緑岩は、数ミリ程度の黒と白の鉱物からできているため、花崗岩に見えます。丹沢湖方面から流れる河内川は、この石灰閃緑岩が多く見られるため、河原が白く見えます。鮎沢川と河内川が合流する音織の河原では、石の色

の違いがはっきりと見えます。石灰閃緑岩の熱いマグマは、丹沢層群に入りこむ際に、まわりの岩石を熱し、変成岩をつくりました。丹沢で見られる変成岩には、黒くつややかなホルンフェルスという岩石や、結晶質石灰岩（大理石）、薄くはがれやすい特徴をもつ緑色片岩や角閃片岩など、さまざまな種類の岩石が見られます。

酒

酒白川の支流には狩川があり、ます。狩川の上流は、箱根火山です。観光名所の夕日滝は、箱根火山の溶岩がつくった滝です。箱根火山も、富士山と同じように、マグマが地表で冷えて固まってきた溶岩からできています。しかし、箱根火山は、灰色の安山岩という溶岩からできています。

さ

つと酒白川の上流の地質を紹介しました。ここで紹介した石のほとんどを、酒白川の下流で見ることができず、酒白川は、岩石の種類が豊富だといつてもいいでしょう。酒白川の河原に出かけたら、ぜひ、足もとにある石ころの起源を考えてみてください。

「地球の息吹 富士彩々」写真展

長年、富士山の写真を撮り続けた秋山英治さん（風景在住）の写真展です。

期間

1月4日⑨～27日⑨

県立生命の星・地球博物館
☎21-1515

「月夜の 小田原城」

ありたらほう
有田坊



(アクリル、エアブラシ)



本名：有田真由美
1975年神戸生まれ。女子美術短期大学卒業。
ジュエリー、アパレル、化粧品、コンピュータなどの広告、イメージポスターなどのデザイン制作、CDジャケット（ミュージックサウンドボックスシリーズの宇多田ヒカル、福山雅治、桑田佳祐ほか）、井上京子リングステージ用カウンセラストラレーション制作、webコンテンツデザイン制作など。
「有田坊」は子どものころのあだ名に由来。



ポストカード(6枚1セット)を、ご希望の方に次の場所でさしあげます。
小田原城天守閣、小田原駅観光案内所、
観光課(市役所4階)、マロニエ
●観光課 ☎33-1521

若きアーティストとして、ホームページのデザインからCDジャケット、さらには女子プロレスラーのリングダウンまで、幅広い活躍を続ける有田坊さん。
意外にも、子どものころは絵は苦手だったというが、デザインの仕事で身を買ってみたいと決心し、大学進学の際に真剣に絵画やグラフィックデザインと向き合った。大学卒業後、広告デザインの仕事を中心に活動を続けている。
最近では、その作風や才能が認められ、国外でも高い評価を受けるようになった。
今回小田原城を描ききっかけとなったのは、小田原市・南足柄市・箱根町・真鶴町・湯河原町の2市3町と神奈川県観光協会などで構成している「西さがみ地区観光事業推進連絡会」が実施した観光ポスターの制作コンペだった。数社が錦を揃った応募作品のなかで、月夜の西さがみ

路を描いた有田坊さんの作品はひときわ異彩を放っていた。「観光というテーマで月夜を描くのはためらもありました。でも昼間のお城を思い浮かべて、大胆とも思えないと思って」。大胆とも思えない挑戦は、審査員の心を動かし見事採用。作品は「神奈川花嫁風月」と題して、ポスターとなつて首都圏を中心とした鉄道各駅やバスの車内などで掲示されたり、ポストカードとなつて配付されたりしている。幻想的なデザインが見る人の想像力をかきたて人気も上々、県観光協会が行ったポストカードプレゼントにも多数の応募が寄せられた。
この原画が市に寄贈されることになり小田原を訪れた有田坊さん。「小田原やこの地域が持つ歴史や魅力が、世界中に発信され、ポスターを見る人の想像力で現代によみがえり、多くの人がこの地を訪れてくれたら」と語ってくれた。

このコーナーでは、映画・音楽・写真・小説・詩などの作品にちなんで小田原を紹介しています。小田原が現われている作家や存在でしたら、市広報広聴課までお知らせください。☎33-1521

輝く小田原人

華麗で繊細な伝統の美

上田 菊明さん

足柄刺繍作家



昭和7年、小田原市生まれ。昭和61年、横浜シルク博物館染色展で日本絹業協会会長賞受賞。平成元年、日本伝統工芸染色展で日本工芸協会賞受賞。平成8年、小田原市市民功労賞受賞。その他、入選・招待作品多数。作品「返る季節」は小田原城天守閣に永久保存。小田原市美術展審査員を務める。足柄刺繍の指導を行っている「繡の会」は、今年20周年を迎える。

明治から昭和にかけて、小田原では「繡箔」が盛んに制作されていた。日本刺繍の流れをくむ繡箔は、木綿などに芯を高く入れて立体的に仕上げたもので、この地方独特の技法である。

「ぼかしの糸を使うのは、ほかに見たことがありません」と話す上田さんは、繡箔を家業とする家に生まれた。繡箔は、小田原の一大産業だったんですよ。「やまとみやげ」として横浜港から輸出され、外国で喜ばれていたんです。このあたりでは、女の人にはみんな、農業や漁業の副業として繡箔をしていましたね。」

しかし、戦争と戦後の機械化の波とで、同業者は次々とやめてしまい、繡箔に携わるのは上田さんだけになってしまった。「この技術を残さなければ」。上田さんは、この伝統工芸を後世に伝えようと、昭和57年に「繡の会」を結成し、創作・普及活動を行いながら、繡箔の技法を取

り入れた独自の「足柄刺繍」を生み出した。足柄刺繍は、縄文土器や青銅器、抽象的な模様といった多様なモチーフに、現代的なデザインと配色を取り入れた、ほかに例のない刺繍である。しかし、使用する絹糸や絹布は全部自分で染めるため、デザインから染色、制作まで手がけられるのは、全国で上田さん一人だ。

「多くの人に足柄刺繍のことを知ってほしいし、刺繍をやっている人以外の方にも見てほしいので、あちこちで展覧会を開いています。全国の方に作品を見ていただくことが夢ですね。」

見た人からは、「ぜひ買いたい」「作ってほしい」という問い合わせも多いそうだが、注文は受けていない。「自分が気になるものを、気になるときに作りたいので。人のやらないような題材を取り上げて、世の中に残る作品を作りたいです」。上田さんの目が、キラリと光った。



縄文土器をモチーフにした「羽織刺繍」

～伝統の美・足柄刺繍～
上田菊明刺繍展
 期間 2月12日(土)まで(水曜休館)
 時間 9:00～16:30(入館16:00まで)
 場所 湯河原ゆかりの美術館
 (湯河原町富上623-1 ☎63-7788)
 入場料 大人600円・小中学生300円



フランス料理に舌鼓

日本エスコフィエ協会が小田原で食事を

笑顔の食事会でし。

この協会の副会長を務めるのが、小田原・城下町大使の親持恒男さん(ホテルオークラ顧問・名誉総料理長)。そこで、普段外に出てフランス料理を楽しむ料理を楽しんでもらおうという催し「小田原で聞かれました」となり、親持さんの指揮のもと調理を担当したのは、箱根と小田原のホテルやレストランで料理長として活躍し、山野内保雄さん・浅羽泰夫さん・鈴木敏之さん・吉川照男さん・山根崇宏さん・栗原俊夫さんです。今回招待された40人の方は、一足早いクリスマスにイメージしたメニューに「どれもとてもおいしい」と大喜びで、かわいらしく盛りつけられたデザートには、あちこちから歓声も聞かれました。

「フランス料理は、高級で敷居が高いように思われるけど、実は庶民的な料理なんです。健康でいるためには普段の食べ物が大変です。おいしくて健康的な食事を広めたいですね」と親持さん。「この事業はともやがりがあるんです。皆さんが喜んでくれてよかったです」と、協会会員の皆さんも

12月8日(土)、日本エスコフィエ協会による「フランス料理を楽しむ会」が、箱根ビール蔵で開かれました。

「日本エスコフィエ協会」とは、日本全国のホテルやレストランのフランス料理・料理長の会です。20世紀初めに活躍し、現代フランス料理の基礎を築いたフランスの名料理人であるエスコフィエの精神を受け継ぐために、30年前に結成されました。優れた技術と指導力を兼ね備え、厳しい入会審査をクリアした人だけが会員になります。会ではエスコフィエの業績にちなんで、フランス料理の普及活動も積極的に行っています。

新年明けましておめでとうございます。

今回、「今年をどんな年にしたいか、1文字から4文字の間で表現してください」と、市民の皆さんに「書き初め」をお願いしたところ、突然の難しい注文に悩みながらも、言葉を選んで、思いを込めて書いてくださいました。ご覧になった皆さんだったら、どんな言葉を選びますか？努力すれば、夢はきっとかないます。市民の皆さんにとって、今年一年が素敵な年でありますように！

市川力也さん
そろそろ就職のことを考えるのであれば今年になるので、自分にはどんな可能性があるのだろうか。可能性は秘めているいなと考えています。一緒に成人式運営委員をやっている家永さんや西原さんは、夢ははっきりしていて素晴らしいです。僕もがんばらないと。



福吉晴さん
真っ先に「平和でありたい」と思いました。心理やがに、この一年を暮らしたいです。



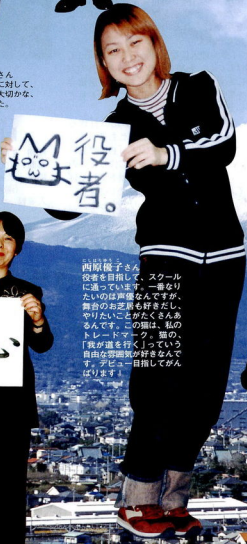
家永香さん
自分がやってみようと思ったことには、何でも挑戦してみる、というのが今の目標です。考えただけじゃなくて、実際に行動することが大事なんで、最近気づいたんです。今、成人式運営委員と資格取得のための勉強に挑戦しています。がんばるぞ！



伊勢田麻紀さん
「いつか結婚できたらいいな」くらいの意味の、長期的な願望ですよ(笑)。これから先の人生で、老若男女を問わず、いろいろな人に出会えると思っています。素敵な人とたくさん知り合えるように、私も素敵な人間になろうと思います。



和泉義正さん
世の中全般に対して、「忠実」が大切かな、と思いました。



西原優子さん
役者を目指して、スクールに通っています。一番やりたいのは声優なんです。舞台のお芝居も好きだし、やりたいことがたくさんあるんです。この猫は、私のトレードマーク。猫の、「我が道を行く」という自由な雰囲気が好きなんです。デビュー目指してがんばります！

石川雄一郎さん
福祉関係の勉強をしています。何にでも挑戦してみ、自分に自信が持てるような人間になりたいです。



廣木まさ子さん
心を平らかにしていきたいです。



高橋一夫さん
人とのふれあいを大事にしたい。と思っています。「会話は別れの始まり」という言葉もありますね。

